

手紙 一

宮沢賢治

青空文庫

むかし、あるところに一疋の竜がすんでいました。

力が非常に強く、かたちも大層恐ろしく、それにはげしい毒をもっていましたので、あらゆるいきものがこの竜に遭えば、弱いものは目に見ただけで気を失って倒れ、強いものでもその毒氣にあたってまもなく死んでしまうほどでした。この竜はあるとき、よいところを起して、これからはもう悪いことをしない、すべてのものをなやまさないと言いました。

そして静かなところを、求めて林の中に入ってじつと道理を考えていましたがとうとうつかれてねむりました。

全体、竜というものはねむるあいだは形が蛇のようになるのです。

この竜も眠って蛇の形になり、からだにはきれいなるり色や金色の紋があらわれていました。

そこへ獵師共が来まして、この蛇を見てびっくりするほどよろこんで云いました。

「こんなきれいな珍しい皮を、王様に差しあげてかざりにしてもらったらどんなに立派だろう。」

そこで杖でその頭をぐつとおさえ刀でその皮をはぎはじめました。竜は目をさまして考えました。

「おれの力はこの国さえもこわしてしまえる。この狩師なんぞはなんでもない。いまおれがいきをひとつすれば毒にあたつてすぐ死んでしまう。けれども私はさつき、もうわるいことをしないと誓つたしこの狩師をころしたところで本当にかあいそうだ。もはやこのからだはなげすてて、こらえてこらえてやろう。」

すっかり覚悟がきまりましたので目をつぶつて痛いのをじつとこらえ、またその人を毒にあてないようにいきをこらして一心に皮をはがれながらくやしいというところさえ起しませんでした。

狩師はまもなく皮をはいで行つてしまいました。

竜はいまは皮のない赤い肉ばかりで地によこたわりました。

この時は日がかんかんと照つて土は非常にあつく、竜はくるしさにばたばたしながら水のあるところへ行こうとしました。

このとき沢山の小さな虫が、そのからだを食おうとして出てきましたので蛇はまた、「いまこのからだをたくさん虫にやるのはまことの道のためだ。いま肉をこの虫らにく

れておけばやがてはまことの道をもこの虫らに教えることができる。」と考えて、だまつてうごかずに虫にからだを食わせとうとう乾^{かわ}いて死^しんでしまいました。

死んでこの竜は天上に生まれ、後には世界^{せかい}でいちばんえらい人、お釈迦^{しやくさま}様になつてみんなに一番のしあわせを^{あた}与えました。

このときの虫もみなさきに竜の考えたように後にお釈迦^{おしえ}さまから教^うを受けてまことの道に入りました。

このようにしてお釈迦^{おしえ}さまがまことのために身^みをすてた場所^{ばしょ}はいまは世界中のあらゆるところをみたちました。

このはなしはおとぎばなしではありません。

青空文庫情報

底本：「ポラーノの広場」角川文庫、角川書店

1996（平成8）年6月25日初版発行

底本の親本：「新校本 宮澤賢治全集」筑摩書房

1995（平成7）年5月

入力：ゆうき

校正：noriko saito

2009年7月16日作成

2009年8月15日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

手紙 一

宮沢賢治

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>